

<< Ver2.6 で追加した「実績降雨強度」機能の操作手順説明 >>

I. 前準備として「降雨強度(mm/hr)ファイル」をエクセルで作成します。

(サンプル1.XLS 参照)

1) 10分毎の「降雨強度(mm/hr)」をエクセルで作成します。

1行目からデータを記載します(「見出し行」は付けない)

A列目=時間(10分単位)

B列目=降雨強度(mm/hr)

2) 上記1)で作成した「10分毎の降雨強度(mm/hr)」をCSV形式へ変換します。

(サンプル2.CSV 参照)

エクセルの変換機能を使用します。具体的な操作手順は下記の通りです。

ファイル(F)→名前を付けて保存(A)→ファイルの種類(T)を CSV (カンマ区切り) (*.CSV)に
設定→ファイル名(N)を設定→保存(S)

II. 調節計算の実行

1) FlowPLan を起動します。

2) 1. 降雨強度(mm/hr)枠内の降雨強度から「実績強度」を選択します。

3) 「実績強度」の入力画面が表示されます。

4) 降雨波形を選択します。(入力例は、中央集中型)

5) 「CSV 読込」 ボタンをクリックします。

6) CSV 形式のファイル (ここでは、サンプル2.CSV) を開きます。

7) CSV 形式のファイルが、「実績強度」欄に読み込まれます。

設計条件テーブル

1. 降雨強度(mm/hr)

降雨強度
☐ 強度式 ☐ 定数 ☒ 実績強度

実績強度

N	分	降雨強度 (mm/hr)
1	10	2.07
2	20	2.11
3	30	2.15
4	40	2.18
5	50	2.22
6	60	2.26
7	70	2.31

降雨波形
☒ 中央集中型 ☐ 後方型

CSV読込

2. 降雨波形等

到達時間(分) = 10

降雨継続時間(分) = 1440

3. 流出量(m³/s)

$Q = \frac{1}{360} \cdot f \cdot r \cdot A \cdot K + Q_{fix}$

f: 流出係数 = 0.84

A: 流域面積(ha) = 247.9

K: 余裕率 = 1.0

Qfix: 流入量(m³/s) = 0.0

4. 調節池設定 (入力は、数値を「マウス左ボタン」クリック)

自然排水

オフィス、余水吐形状(m)

オフィス段数
☒ 1段 ☐ 2段

オフィス形状
☒ 矩形 ☐ 円形

オフィスサイズ逆算
 Qc(m³/s) 6.0

流量係数

オフィス
 C2 = 0.60

C1 = 1.80

C = 1.80

余水吐
 C = 1.80

5. 調節池容量設定

貯水容量
☒ 自動計算 ☐ 手入力

貯水量初期値(m³)
 V(m³) = 0.0

標高(H) (m)	面積(F) (m ²)	貯水量(V) (m ³)
24.00	79.0	0.0
26.00	79.0	158.0
26.01	18700.0	251.8
27.00	20920.0	19863.8
27.01	41920.0	20177.9
28.00	46666.0	64025.2
29.00	49020.0	111865.2

計算式設定
☒ 両端断面平均法 ☐ 量頭離断法

6. 洪水計算条件

計算時間(分) = 2000

計算ピッチ(分) = 20

計算開始水位(m) = 0.0

出力図色
☒ カラー ☐ 白黒

計算開始

■これ以降の手順は、従来(Ver2.5)通りです。

Ⅲ. 注意事項

1) エクセルシート「降雨強度(mm/hr)ファイル」の作成注意事項

- ・「降雨強度(mm/hr)ファイル」には空欄（入力漏れ）、空行（入力漏れ）が無いこと。
- ・数値は、半角数字で入力してください。（全角数値は不可）

2) 「実績降雨強度」のデータは、FlowPlan で「保存」「読み込み」できません。

エクセルで作成したファイルを保存してください。

（Ver2.6 と Ver2.5 間で、設計条件データの互換性を持たせる為）

以上